

都市再生整備計画 事後評価シート
富山市中心市街地地区

令和3年3月

富山県 富山市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	富山県		市町村名	富山市		地区名	富山市中心市街地地区			面積	436 ha		
交付期間	平成28年度～令和2年度		事後評価実施時期	令和2年度		交付対象事業費	6,512.5百万円	国費率	0.5				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	公園(城址公園、布瀬公園、牛島公園、稲荷公園、街区公園)、地域生活基盤施設(富山駅自由通路、まちなか公共サイン、屋内自転車駐車場取得)、高質空間形成施設(富山駅高架下壁面等)、中心拠点誘導施設(専門学校)、市街地再開発事業(総曲輪三丁目地区)										
		提案事業	-										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	公園(稲荷公園)			事業計画の見直しにより事業を削除する。			影響なし。				
		提案事業	-			-			-				
	新たに追加した事業	基幹事業	道路((都)富山ライトレール線、(都)牛島本町線)、地域生活基盤施設(中心市街地自動二輪車駐車場、富山駅北口駅前広場案内サイン等)、高質空間形成施設(まちなかベンチ、まちなかトイレ、富山駅北口駅前広場修景等)、市街地再開発事業(中央通りD北地区)			事業計画見直しにより追加する。			道路((都)富山ライトレール線、(都)牛島本町線)、地域生活基盤施設(中心市街地自動二輪車駐車場、富山駅北口駅前広場案内サイン等)については、影響なし。 高質空間形成施設(まちなかベンチ、まちなかトイレ、富山駅北口駅前広場修景等)については、中心商店街及び富山駅周辺の歩行者通行量に関係するが、指標及び数値目標は据え置く。 市街地再開発事業(中央通りD北地区)については、都心地区の居住人口に関係するが、指標及び数値目標は据え置く。				
		提案事業	地域創造支援事業(富山市まちなか居住推進)、事業活用調査(都市構造の趨勢を踏まえたコンパクトシティ政策検討、第3期都市再生整備計画事業事後評価、コンパクトシティ実績データ集作成、路面電車の南北接続に伴う公共交通利用実態調査)			地域創造支援事業(富山市まちなか居住推進)については、関連事業から提案事業への変更による。 その他については、事業計画の見直しにより追加する。			地域創造支援事業(富山市まちなか居住推進)については、都心地区の居住人口に関係するが、指標及び数値目標は据え置く。 その他については影響なし。				
交付期間の変更	当初変更	なし		なし		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-				
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	市内軌道(路面電車)の一日平均乗客数	人/日	12,179人/日	基準年度 平成26年度	13,280人/日 (約1割増)	目標年度 令和2年度	モニタリング	評価値 13,848人/日	○	あり	市内電車環状化に係る道路整備等による公共交通基盤の高質化や富山ライトレール軌道に係る道路の拡幅整備をはじめ、まちなか公共サイン整備事業やベンチ整備事業、自転車駐車場取得事業等による公共交通の利便性の向上と歩行者・自転車利用環境の向上が図られ、市内軌道(路面電車)の利用者の増加に効果があった。	令和3年8月末
	指標2	中心商店街地区及び富山駅周辺の歩行者通行量	人/日	63,900人/日	平成26年度	63,900人/日 (現状維持)	令和2年度		69,920人/日	○	あり	グランドプラザにおけるソフト事業の展開や城址公園における魅力向上のための整備等により、賑わい拠点の維持・活用が図られ、中心商店街地区の歩行者通行量の維持に効果があったものと考えられる。	令和3年4月末
	指標3	都心地区の居住人口	人	21,600人	平成26年度末	21,600人 (現状維持)	令和2年度末		21,625人	○	あり	住宅系再開発事業等の推進による定住基盤の創出と、歩道や側溝、街区公園等の整備による豊かな住環境の形成が図られたことで、都心地区の居住人口の維持に効果があった。	令和3年4月末
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	なし					モニタリング	評価値					
4) 定性的な効果発現状況	トータルデザインによるまちなか公共サインの整備、まちなかベンチ整備事業、環状線沿線夜間景観ライトアップ事業等により、中心市街地における質の高い都市景観の形成、及び歩いてまちなかを回遊しやすい・回遊しやすくなる環境整備が進んだ。富山駅前広場と一体となった南北自由通路の整備・活用により、公共交通の利便性の更なる増進と、駅南北の一体的・連続的な新たな賑わい拠点の創出が進んだ。												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	中心商店街地区及び富山駅周辺の歩行者通行量について、毎年同時期に調査を実施。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も引き続き中心市街地における歩行者数の調査を行い、賑わいの変化に注視していく。なお、富山駅南北自由通路開通に伴う歩行者動線の変化に応じた調査地点の見直しについて検討を行う。					
	住民参加プロセス	とやま まちなかマーケット「越中大手市場」の開催。 富山市、大手モール振興会、地域、市民が協働で立ち上げた市民運営の定期市。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も引き続き中心市街地における地域の人々の暮らしに溶け込んだ賑わいとコミュニケーションを創出する取組として活動の活性化を促進していく。					
持続的なまちづくり体制の構築	官民連携によるエリアマネジメントの推進体制の構築。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 引き続き都市利便増進協定や道路占用許可基準の特例の活用により、民間活力を活用した地域の賑わいの創出と利便性・快適性の向上を図っていく。また、より柔軟な官民連携の取組へと発展させていくことが期待される。						

